

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第2回金谷区地域協議会

2 報告（公開・非公開の別）

（1）ヨーデル金谷の指定管理者の指定について（公開）

3 議題（公開・非公開の別）

（1）地域活性化の方向性について（公開）

4 開催日時

令和5年5月31日（水） 午後6時から午後7時35分まで

5 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

6 傍聴人の数

1人

7 非公開の理由

—

8 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：村田敏昭（会長）、川住健作（副会長）、山井広子（副会長）
石川美恵子、大瀧幸治、小林雅史、高橋敏光、高宮宏一、長 和子、
平良木美佐江、益田侑季（欠席4人）
- ・ 市役所：観光振興課 若山課長、宮下主任
- ・ 株式会社ミーナハライペ：浅見代表取締役
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、滝澤副所長、石黒係長

9 発言の内容

【石黒係長】

- ・ 加藤委員、神崎委員、高橋 誠委員、土屋委員を除く11人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告。

【村田会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 会議録の確認：益田委員と平良木委員に依頼
次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【滝澤副所長】

- ・ 配布資料の確認
- ・ 次第に基づき、議題の確認

【村田会長】

- ・ 「議題等の確認」について質疑等を求めるがなし。

— 次第3 報告（1）ヨーデル金谷の指定管理者の指定について —

【村田会長】

次に、次第3 報告（1）ヨーデル金谷の指定管理者の指定についてに入る。

【観光振興課：若山課長】

- ・ 挨拶

【観光振興課：宮下主任】

- ・ 当日配布資料No.1により説明

【株式会社ミーナハライペ：浅見氏】

- ・ 資料により説明

【村田会長】

担当課及び浅見氏の報告、説明に対し、質疑を求める。

【小林委員】

四つの目標の説明をいただいた。この後、我々は金谷区の地域活性化の方向性を議論するが、まさにそこで議論しているポイントとなる項目が、今、浅見氏から提案いただいたことと非常にリンクするポイントが多いと感じている。今後できる予定の公民館との連携もそうだが、個人的には長野県や妙高方面から山麓線を通して来る方にとっては、金谷山を中心として、公民館、ヨーデル金谷のエリアが玄関口

だと思う。まず、あそこで足止めをさせて、いろいろな意味で情報発信をして、食事をした人がいろいろなことに興味を持つ。そこからまた新しいつながりが広がるというような、あそこで何かしなくてはいけないと思っている。その提案に対しては、まさに今取り組まれようとしていることがマッチしていると思った。地域協議会と議論する場や他のいろいろな地域活動をされている団体と議論する場を継続的に持っていきたい。産直市場も大賛成だし、それもどのような形がふさわしいか皆さんで意見を交わしていけばよい。上越教育大学の学生ボランティアの話も非常にありがたいし、上越教育大学だけでなく、地域の高校生も多分そういうことを欲していると思う。地域のエネルギーは、若い人の活動だと思うので、若者を巻き込めるような活動がどんどんできればよい。

それから、オーストリアではないが、若い頃に仕事でスイス寄りのフランスに行く機会があったのだが、一週間に一回だけ社員食堂にビーフカツが出た。それが楽しみで非常においしかった。私もたまに自分でもビーフカツを作るが、これが名物になったら非常によいのではないか。

もう一点、私は個人的に上越の海では、メギス推しである。メギスは、フライが一番おいしいと思うが、全国発信できるような料理をエリアが違うかもしれないが、山の幸、海の幸があるので、そういったところも検討いただければと思う。

【村田会長】

他にいかがか。ヨーデル金谷という称号は、そのまま一つのシンボルとして残って、運営会社が「株式会社ミーナハライペ」になると思っているが、その点はどうなのか。

【浅見氏】

ヨーデル金谷という名前は、そのまま使っていく。そこを運営するのが「株式会社ミーナハライペ」という会社である。

【石川委員】

具体的な目標ということで、写真の展示や地場製品の販売、上越教育大学との交流やボランティア、すごくよいことが行われている。それらを活用できたらすごくよいと思う。四つ目のオーストリア料理であるが、もともとの設立の目的が金谷山

でレルヒさんがというのがあるのだと思うが、ちょっと高級な店というイメージがあり、私のシングルマザーの知り合いから、子どもと二人で玄関まで行ったが「あんまりお高いので、帰ってきちゃったの。入れなくて」という話を聞いた。もう少し入りやすい値段のメニューもぜひ計画していただきたいと思うのだが、それは、やはり威厳を保っていらっしゃるのか。

【浅見氏】

一点目のオーストリア料理にこだわるよりは、ビーフカツにしたのもお米とよく合うというポイントがあり、当然上越のお米を使っているが、その米を食べていただけのようなメニューを開発するというのも一つあった。ビーフカツが出てからは、パンよりもお米の数量が増えた。外国料理にこだわっているわけではなくて、チキンカツ、ハンバーグ、パスタ、オムライスもある。

二点目については、よく博物館みたいと言われるが、確かに値段がそれなりの部分もあるかもしれないが、意外と手軽なものもある。ドリンクバー、デザート、サラダ、ハンバーグ、ご飯、スープが付いてセット価格で1,600円程度なので、ファミレスより安かったりする。イメージは重々承知しているので、より一層皆様に利用しやすくなるような形でやっていきたい。そういった意味でも店頭で野菜の販売所が置いてあったりすると、親しみが湧くというか、こういうこともやるのだねと言っただけのような場になろうかと思う。まずは足を運んでいただいて、私どもも意見を伺いながら、改善できるところは改善していければと思う。ぜひ「折り返さずにまた来てください」とお伝えいただければと思う。

【大瀧委員】

私の考えはちょっと古臭いかもしれないが、よく物事をやってみる時に3年はやってみてというのが私としての常識なのだが、指定期間が1年10か月では少し短いのではないかと。

【若山課長】

1年10か月というのは、その前のリフレ上越が指定されていた残期間ということなので、そういう区切りになっている。その先はまた今後の話なので、またそのときに皆さんといろいろ協議しながらどうしていくのかということになる。今回の

決まりごとで、大変申し訳ないが、残期間ということが前提での指定なので、令和6年度の3月31日までということになる。それは、くわどり湯ったり村も同じで、その形でやらせてもらっているの、そこはご理解いただければと思う。

【村田会長】

大瀧委員が言われたように企業は民間なので、1年で会社の経営結果が出るとも思えないし、やはり3年ぐらい経たないと経営が安定していかないのかなという思いで言われたのだと思う。1年10か月で、経営の結果がどうなるのか、地元でも心配していると思う。ヨーデル金谷に集合という思いが伝わるようなことをして皆さんに理解、協力してもらわないと、なかなか1年10か月でその結果を見ることはできないのではないかと。経営としての考え方がおありになるのか。それと併せて、ヨーデル金谷の負債や繰越金について、新会社は受けていかななくてはならないのか。内部的な話なので可能であればお聞かせ願いたい。

【若山課長】

後段のことについて、私から説明する。基本的に今までのリフレ上越は、これから不正受給を返さなければならないので会社自体は残る。基本的にはその会社が解散して清算するという事は、今の会社の皆さんには関係ない話なので、そこは株主の上越市としてきちんと整理をしていかななくてはいけないと思っている。これはずっと言ってきたことだが、不正受給に係ることについては会社できちんと責任を取っていただかないといけないが、指定管理で行ったことの整理というか、清算については、私ども上越市として整理をしていかななくてはいけないと思っているので、負債をそのまま引き継ぐということはないとご理解いただきたい。

【浅見氏】

負債はないということで、確かにそのとおりである。今日も棚卸しをしていて、残っている食材や資産の部分で私どもの会社が買うべきものは買う。市にお願いするものは市にお願いするという形でスタートしているので、最初から大規模な負債を抱えてスタートということではない。資金繰りの部分でもそんなに深刻ではないと考えている。1年10か月で安定基盤を築けるのかという部分に関しては、私もドキドキしているが頑張るしかないと思っている。会社を起こすに当たり、いろい

ろ試算をし、これならできるかという部分もあり、継続して2年、3年、又は5年、10年と続けていくためには地域の皆様と連携しながら、地域にとって必要な施設がヨーデル金谷だと思っていただけることが必須条件だと考えている。ただ経営がよいだけではなくて、おこがましいが、地域の皆様から「ヨーデル金谷が、金谷かいわいのシンボルだよね」と言っていただけるような運営の仕方を継続しながら、車の両輪で、経営もしっかりやって、地域の皆様と事業的な部分もしっかりやっていくのが一番長生きできる私どもの会社の形ではないかと思っている。皆さんにご協力いただきながら、私も精一杯頑張るので、ご指導のほどよろしくお願ひしたい。

【大瀧委員】

一番心配しているのは、こんなに短い期間で大丈夫かということである。次の会社の人、これだけの理想を掲げて一生懸命やっているのだから、今日明日すぐに駄目になることはないだろうと思ってはいるが、世の中の常識としては、新しい取組は少なくとも3年はやってみるということだと思ふ。一市民がそういうことを心配しないで済むようにやってもらいたい。

【村田会長】

いろいろなことを申し上げたが、新しい会社が明日からスタートするので、改めてお祝ひ申し上げる。一生懸命頑張っていただけのように、私どもも地域を挙げて協力することをこの場を借りてお話しする。

以上で、次第3 報告(1)ヨーデル金谷の指定管理者の指定についてを終了する。

— 観光振興課、浅見氏退席 —

— 次第4 議題(1)地域活性化の方向性について —

【村田会長】

次に、次第4 議題(1)地域活性化の方向性についてに入る。

- ・事務局に説明を求める。

【滝澤副所長】

前回の会議でいただいた意見を振り返ると、主なものとして、

- ・地域活性化を具体化するためには、ヨーデル金谷や歴史ある史跡など、今あるものを活かすことが必要である。
- ・いろいろな団体が連携してネットワーク化されることをキーワードとしてほしい。
- ・環境整備活動をしている団体へのサポートが必要である。
- ・情報発信という視点も一つの方策になる。

といった意見が出された。本日の素案のタイトルと呼んでいる箇所については、グループワーク時の2班で作成したものに対して、前回の会議で多くの委員から賛同をいただいたという経緯がある。この活性化については、去年の秋くらいから何度も委員の皆様から意見をいただいていたという経緯がある。それを参考にしながら、先般の正副会長協議の場で事務局と相談しながら、本日お示しした素案を決定したものである。

【村田会長】

素案の説明に対し、意見を求める。

【平良木委員】

構成要素の五つの語尾が全部「目指します」となっている。地域活性化に向けての大きな目指すところも「目指します」となっている。構成要素をどうとらえるかによって表現が変わってくると思う。私は、具体的な方策ととらえたので「推進」あるいは「推進する」とか、「何々を図る」「促進する」というような、具体的に行うことという視点で考えてきた。全部「目指します」と上の大きな目標のところと同じにしたのは何か意図があったのか。これだと、大きな目指すものがあって、その中で具体的に細かく分けて目指すというようなとらえ方なのか、それとも別の意図があったのか教えていただきたい。

【滝澤副所長】

事務局の担当が整理する際に構成要素についてもスローガンと同じく「目指します」としてあるが、大きな理由はなかったと聞いている。

【平良木委員】

言っていることは、違わないような気がする。構成要素とは、どういう視点なのか最初の提案段階からはっきりしなかった。皆さんが「目指します」で賛成である

なら、書いてある中身は私たちの意見が大体とらえられていると思うのでよいと思う。

【村田会長】

正副会長会議の中で協議したが、具体的には、平良木委員と小林委員が取りまとめた二つの案があった。平良木委員のほうは、推進、ネットワーク化、利用促進と歯切れのよい言葉で区切られていた。小林委員の班の打ち合わせの中では「目指します」という文言を使っていた。ただ、五つの構成要素の中で一つだけ「目指します」という言葉がなかったので、正副会長としては、与える影響を考えて同じようにしたほうがよいのではないのかということで、「目指します」という文言に統一した。タイトルは「つながる地域を目指します」となっているから、そういう考え方で統一性を図ったということで、皆様にお諮りするために、本日、提示している。

一つ一つ確認する方法もあるが、上段の金谷区の地域活性化に向けてということについては、1班も2班も同様の考えを案として出していたが、これについてはいかがか。

【平良木委員】

これでよいと思う。細かいことだが、「िकास」をひらがなにしたのは意図があったのか。

【村田会長】

「活」か「生」か「い」で私どもも議論した。言葉によって感じ方が違うので、皆さんの意見をお聞きしたい。

【益田委員】

両方の意味がかかっている感じがして私はよいと思う。人それぞれでとらえ方は違うので、どちらに取られても、どちらも大事な感じであるし、どちらもこれから必要だと思うのでひらがなが非常によいと思う。

【村田会長】

上段の見出しは素案の文言どおりでよいか、承認を求める。

(よしの声)

次に五つの構成要素について、意見を改めて求める。

一つ目の「地域住民主体の環境整備活動・史跡保存活動・各種イベントを推進し、さらには持続・継続を目指します。」は、いかがか。

【平良木委員】

持続と継続が似ていて、重複しているような気がした。推進の中にも持続するということが十分入っていると思うので「推進し、さらに発展させます」とか「推進を目指します」でどうか。あえて二つ入れた意図はあったのか。

【村田会長】

持続というのは保つという意味があろうかと思う。継続は続けることと発展を図るという二つの意味があると思うし、持続というのはこれを保っていく。そして、さらに継続発展していく。私がかくどいから、この2文字を入れたということである。

【大瀧委員】

私たちが何かイベントをしたら、それが何十年も続いて、ちょうど新潟まつりではこんなことをやっていたとか、秋田のような長い伝統となるようにやってもらいたい。ちょっと人を集めて行事をやるが、すぐに変わったということのないように、日本中の人々が、上越市の金谷区で昔始まったこういう行事があれば何十年も続いていると言われるような方向へ持って行ってもらいたい。

【村田会長】

小林委員に「持続・継続」のとらえ方をお聞きしたい。

【小林委員】

先ほど会長が言われたように、持続はフラットなイメージで、継続は平良木委員も言われたように、さらなる発展という言葉を含んでいるニュアンスを感じる。上段の「各種イベントを推進し、」というところまでは、現状の組織が行っていることを応援しよう。後段に対しては、その団体に若い人が加わり、さらにパワーアップして発展して、その継続、持続で発展という意味を二段階持たせている文章だろうと理解している。

【村田会長】

一つ目について、承認を求める。

(よしの声)

二つ目の「様々な活動をしている地域や団体の情報を広く発信し、交流拡大・連携を目指します。」は、どうか。

【平良木委員】

よいと思う。団体の情報というより、活動の情報の発信かと思ったが、同じようなことかと思う。

【村田会長】

団体の情報でなくてもよいか。よい字句であれば変えることはやぶさかではない。

【平良木委員】

代わりの文言は、考えていない。

【村田会長】

二つ目について、承認を求める。

(よしの声)

三つ目の「新しい金谷地区公民館を中心に、情報発信・交流拡大・団体間のネットワーク化を目指します。」は、どうか。

【平良木委員】

二つ目と三つ目が、後半部分に共通するところが多い。交流拡大、連携とネットワーク化は似ている。違いがわからない。公民館を強調するのであれば、「新しい金谷区公民館を中心に、地域住民による文化活動や交流活動の発展を目指す」というようなことかと思う。二つ目と似ていても必要だということで挙げられたのか。

【村田会長】

私たちが考えたのは、現在ある地域団体というのが二つ目であって、三つ目は、「1年後、2年後に新しくできる金谷地区公民館を中心にしていきたいと思います」という二本立てで、今現在と1、2年後の予定のところを明確に分けて強調したと考えて、この文面をそのまま取り入れた。平良木委員が言われたように、二つ目の「情報発信・交流拡大」と同じ文言なので、平良木委員の言葉をそこへ持っていくことも可能である。これについて、小林委員どうか。

【小林委員】

発信して交流拡大、その情報共有というものはもちろんやらなくてはならないが、

その手法が明確ではない。その手段として、金谷地区公民館を中心にする。先ほど浅見氏から話があったように、ヨーデル金谷もその一翼を担うということもあるので、逆にヨーデル金谷という言葉を入れたらどうかと思った。とにかく、それを発信してネットワーク化する核がどこかというところを明確にしたいということだと思う。

【村田会長】

具体的に「情報発信・交流拡大」と同じ意味合いの言葉がある。これについて、平良木委員がよいことを言われた。もう一度言ってほしい。

【平良木委員】

全然違う内容である。「地域住民による文化活動や交流活動の活発化を図ります」と考えたのだが「目指します」に揃えるのか。

【村田会長】

小林委員の班で考えたことと少し異なる。もう一度言う。「新しい金谷地区公民館を中心に、地域住民による文化活動や交流活動の活発化を目指します」という文言が、二つ目と重なる部分があるので、こういう文面に置き換えたらどうかという意見だが、小林委員どうか。

【小林委員】

事務局にお任せする。

【村田会長】

素案に対して、平良木委員が言われたこの言葉を組み合わせた形で、今一度、事務局と正副会長で相談してよいか。それとも、今、皆さんで決めるか。

【小林委員】

決めてはどうか。

【村田会長】

「情報発信・交流拡大・団体間のネットワーク」という文言があったほうがよいということであれば、このまま素案どおりにするが、二つ目と重なる部分があるから、もう少し考えられないかということなので、少し考えてほしい。

【小林委員】

「新しい金谷区公民館を中心」という言葉を二つ目の最初に持ってくると、三つ目がフリーになる。そうすると、新しい公民館という始まりのものが二つ出てしまう。情報発信するのは、金谷地区公民館でもあるし、ヨーデル金谷でもあるということを考えれば、三つ目の金谷地区公民館を中心に発信するということを取り下げて、三つ目を平良木委員の意見のとおりにする。情報発信は、別にその発信拠点がどこだということにこだわらないとすれば、この三つ目だけ差し替えていただければよい。

【村田会長】

「新しい金谷地区公民館を中心に、地域住民による文化活動や交流拡大、そして団体間のネットワーク化を目指します」はどうか。

【高橋敏光委員】

「新しい公民館」というからおかしくなる。今から公民館活動をする。新しい金谷地区の公民館を中心に、ではなく「公民館を中心」とし「新しい」は要らない。新しくなろうが、今の公民館だろうが、新しくなったらまた考えればよいのではないか。「新しい」というと2年も先の話になるし、今ここで考えるのであれば、「公民館を中心」でよいし、そのままの言葉で2年後に言っても、まだ通用しているようだったらそのままにすればよい。

【村田会長】

小林委員の意図としては、新しい公民館やヨーデル金谷のある地域を中心という意味で、新しいと入れたのだと思う。今の寺町を中心ではなく移転後のことを言いたいのだと思う。

【小林委員】

時間軸として考えると、今、議論している段階では新しい公民館かもしれない。

【村田会長】

三つ目については、なかなか決まりにくいので、後ほど正副会長と事務局で相談させてほしい。

四つ目の「道の駅、農家産直市場、ふるさと納税など、地域発のアイデアを形にできるよう目指します。」はどうか。

【平良木委員】

「ふるさと納税など」の部分が、ふるさと納税を設立するような誤解を招くような気がする。これは、返礼品の開発ということか。そうであれば、言葉を正確に、私は括弧で括る必要はないと思う。「道の駅、産直市場、ふるさと納税の返礼品開発など」としたらどうか。最後の部分を「できるよう目指します」とするのは、日本語として違和感がある。目指すというのは、そこがピンポイントでないと駄目で、できるというような方向なので「アイデアの具現化を目指します」としたらどうか。

【村田会長】

「ふるさと納税返礼品」と入れるのか。

【平良木委員】

「ふるさと納税返礼品の開発」と提案した。

【小林委員】

「返礼品の開発」でよいのではないか。

【平良木委員】

道の駅に何かを設置という文言はないから、揃えるなら「返礼品の開発」は要らないかもしれない。「市場を開設する」など動詞的な言葉が入っていないので。

【村田会長】

まとめると「道の駅、農家産直市場、ふるさと納税返礼品など地域発のアイデアの具現化を目指します」でよいか。

【高橋敏光委員】

農家の直売所の市場は、無理だと思う。道の駅も無理である。どう考えてもできるわけがない。ふるさと納税といっても、この金谷地区で何かふるさと納税の返礼品にできるような品物があるのかどうか。これも品物が無いから無理である。全体的に四つ目は難しい話だと思う。皆さん、ここで考えても、こんな大きい目標を立てたのでは、我々の頭ではできるものではないし、できる方向性はないし、ちょっとでも突っ込みたいと思っても突っ込む隙間がないと思う。それよりも、活性化の方向性なので、先ほどヨーデル金谷の浅見氏も言われたが、地元の野菜などを店頭において売ってみたい。

【村田会長】

夢は大きくてもよいということで、この四つ目が出たと思うが、高橋敏光委員からは、余りにも膨大で無理な話ではないかという意見をいただいた。小林委員は最初から「道の駅ができるといいね」とずっと言葉にしている。ここで、突然出たわけでもない言葉だと思うが、実際、なかなか実現性が難しいと言われる高橋敏光委員の理論も分かるし、委員の皆様方、一人一人にお聞きするが、四つ目は余りにも掲げる目標が大きい。よって、これは心の中にしまっておいて、文言としては出さないというやり方もあるが、いかがか。

小林委員、不本意かもしれないがどうか。

【小林委員】

私一人で決めるわけではない。

【村田会長】

皆さん、いかがか。高橋敏光委員が言われることもごもつともであると感じるので、書いたのはよいが、やらなければならないということでもないが、現状では具現化することはかなわないのかと思う。

【石川委員】

最初にみんなで目指す目標を考えた時に、私は、小林委員と別の班だったが、みんなで一つの拠点を作って、その拠点から金谷区のよいところを発信できるような、例えば、歴史を案内し、いろいろなことをしたいということで、その拠点がヨーデル金谷の場所で、公民館のある場所がとてもよいねということで、そこに産直市場もあればよいね、道の駅もよいねという話が出ていた。それはすごくよいことで、私たちの発信力がどれだけ具現化できるのかというのは、それはまた別の話だが、目指す目標としては、あそこがとても賑やかな拠点になればよいと思う。ただ、私は公民館をあまり利用したことがないので、どのような団体がそこを利用し、どういう役割ができるのかは見えないので、何も言えない。先ほど、ヨーデル金谷の浅見氏が産直品も置きたいと言っていた。いろいろなものが、混ざっているのかなと思う。最初は、ヨーデル金谷がどうなるかわからない状態だったので、あそこを拠点に何か発信できる場所ができれば、産直市場というのは、道の駅のような、例え

ば、あるるん畑や新井の道の駅など、あんなに大規模でなくてもよいが、東にあるるん畑があるので、西にも小型のものでよいから産直市場というか道の駅のようなものができたらよいと考えた。私は、道の駅や産直市場が欲しいと思う。一番欲しいのがそれらで、公民館やヨーデル金谷との兼ね合いを考えると、それは無理かとも思うが、何かの拠点が欲しい。それがなくなったら、みんな絵に描いた餅になってしまう気がする。高橋敏光委員のおっしゃることもよくわかるが、何かやりたい気もする。

【村田会長】

四つ目を保留にするか、委員に挙手を求める。

【石川委員】

保留にしたほうがよいというのは、もう一回考えるということか。

【村田会長】

ここには載せないということである。

【高橋敏光委員】

野菜は、それほど売れるものではない。

【村田会長】

では、四つ目は、削除することとしてよいか。

(よしの声)

五つ目の「交通の要所である山麓線をいかし、市街地から中山間地までつながる金谷区を目指します。」はどうか。

【平良木委員】

抽象的で何を指しているのか、というのはある。市街地から中山間地まで「つながる」とあるが、具体的にどういうことをイメージされたのか。それから、言葉の問題で、交通の要所というのは、ポイントの言葉だと思う。要所という言葉は、関所のような感じがするので、道路全体を言うのであれば、「市内の交通の大動脈である」のように、道路全体を指すような言葉に変えたほうがよい。

【村田会長】

例えば、「金谷区の大動脈である山麓線をいかす」というような言葉がよいという

ことか。

【平良木委員】

どちらかというところのことである。

【村田会長】

小林委員どうか。

【小林委員】

新井方面から来た場合、金谷区の入口が山麓線である。どちらかというところ、交流人口拡大ということに関しては、長野、新井方面から来る人の足を止めるということの第一の要所が山麓線であるという意味である。「つながる」というのは、何か個別に特定してつながるという意味ではなくて、大瀧委員が「金谷区は広い。みんなバラバラで金谷区の一体化とは何なのか。」とずっとおっしゃっていたので、その意味も含めて、つながるために新しく公民館ができる場所、ヨーデル金谷、いろいろなものを含めてあそこから情報発信ができて、いろいろな活動がつながっていくという意味の文章である。

【村田会長】

「交通の要所」「金谷区の要所」あるいは「金谷区の大動脈である」という言葉。今、思い当たる言葉は三つほど出てくるが、いかがか。小林委員の説明にあった「交通の要所」という文言でもよいか。大方、皆さんの意見が出たので、改めて交通の要所というそのままの言葉で、この五つ目はこのような文面で構成要素としたい。まとめると、五つの要素が四つになった。そして、三つ目の要素は、先ほどの二つの言葉を正副会長と事務局で再度相談して、次回提示することとする。

以上で、次第4 議題（1）地域活性化の方向性を終了する。

— 次第5 その他 —

【村田会長】

次第5に入る。金谷区の防災機能強化について、小林委員より報告を求める。

【小林委員】

- ・資料No.2により説明。

【村田会長】

報告について質問を求めるがなし。

以上で、次第5 その他を終了する。

— 次第6 事務連絡 —

【村田会長】

次に、次第6「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【滝澤副所長】

- ・第3回協議会：令和5年6月28日（水）午後6時から 福祉交流プラザ
- ・第4回協議会：令和5年7月26日（水）午後6時から 福祉交流プラザ
- ・配布資料：三郷区、谷浜・桑取区・大湊区、地域協議会の「地域活性化の方向性」

地域独自の予算の概要（抜粋版）

男女共同参画推進センター講座 チラシ

「地域自治の推進に向けたヒアリングの協力」ということで、委員にお願いの文書と調査票を郵送した。当初、お送りした調査票に誤りがあり、差替えの調査票を再送したので協力をお願いしたい。6月28日の協議会の際に、受付で調査票を提出いただきたい。

【村田会長】

事務局の説明について、質問のある委員の発言を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

10 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

1 1 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。